



ばん 坂 さとる 悟

質
問
QUESTION

公共施設（トイレ）の
バリアフリー化は

庁舎北側のトイレのバ
リアフリー化を検討し
ます

〔総務課長〕

公園トイレの見直しを
検討します

〔生涯学習課長〕

数多くあるインフラ整備の中で洋式トイレは省エネ、節水性能に優れた製品に置き換わる事で二酸化炭素削減が期待され、商業施設、オフィス、コンビニ、一般家庭などに急速に普及しています。

温水洗浄便座トイレの普及は2020年3月内閣府調べで100世帯当たりの保有台数は114.5台、普及率は80.2%で一般家庭ではスタンダードになっています。

隣の市では、過去はまちづくり交付金制度現在は都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業、公園施設長寿命化対策支援事業などの交付金事業を活用し、大垣公園、町中公園など、公共トイレのリニューアル工事（バリアフリー化）が順次進められています。

質問 令和3年度に北側庁舎の耐震補強設計をされると伺いました。その中に、バリアフリー・トイレ等の改修も計画されていますか。

回答 今後、公共施設の整備・改修に関する方向性の取りまとめを行います。北側庁舎の耐震改修を進めていく中で、トイレのバリアフリー化等も検討します。

質問 梅の名所の百梅園、アンヒルパーク、北部公園などに年間何人程の来園者がありますか。残念な事に和式トイレのために用を足せない子どもたちもいると聞いています。早急に改善する必要があると思います。

回答 百梅園は2月中旬旬から3月下旬まで梅の花が楽しめる間、約6万人の来園者があります。総合運動公園（アンヒルパーク、野球場、サッカー場、総合体育館）および北部公園のトイレの洋式率は約40%です。公園全体を見て、今後検討します。



快適なやすらぎ苑のトイレ(身体障がい者用)